

『18歳を市民に』

高生研



第63回全国大会 2025 熊本大会

会期・会場
2025 年
8月9日(土)～11日(月)
熊本中央高校・
くまもと県民交流館パレア

大会テーマ

生徒の「傷」に応えられる学校とは？

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
8月 9日 土				受付 12:00～	<全体会> 開会行事 基調発題 13:00～13:30 13:35～17:00				休憩・ 移動	交流会 18:00～20:00		
8月 10日 日		一般分科会 9:00～12:30			昼食 休憩 12:30～ 13:30	一般分科会 13:30～17:00			休憩・ 移動	総会 17:45～19:45	懇親会	
8月 11日 月		問題別分科会 9:00～12:00			別れの 集い 12:10～ 12:50							

※熊本中央高校内ではスリッパなど上履きが必要です。持参してください。
※ゴミの持ち帰りに協力をお願いします。

全体会 （開会行事・基調討論 8月9日（土）13：00～17：00）

高生研 2025 熊本大会 **基調発題** 西之園 創平（大阪）
生徒の「傷」に応えられる学校とは？～生徒から受け取った宿題～

Sは小学校の頃、暴力も含むいじめを受け、それがトラウマとなり、対人関係に課題を抱えている。そんなSが、ゼロトレと家父長的な生徒指導を校風としている西之園の学校に入学してきた。授業に全く参加せず、指導にも従わず、他人とも関わろうとしないS。しかし、友人の働きかけや、体育祭や文化祭の取り組みを通して徐々に関わり始めるが、Sの心の傷は深く、うまく関係を作れず、再び殻に籠もり、そのまま卒業する。今までのやり方が通用しないSの出現に西之園も教員集団も動揺する。Sをどう理解し、何をすべきだったのか。Sから出された宿題を考える。

主催：全国高校生活指導研究協議会

<一般分科会 8月10日(日) 9:00~12:30>

1 [HR] 単位制高校1年生 初担任の取り組み

小川ひなた

学校の論理と困難な状況に挟まれながらも、生徒の力を信じてかかわり続けた初担任実践。欠席が続く田中への家庭訪問を試みるが、学校関係者からそれを阻まれてしまう。ようやく実現した家庭訪問先で田中は小川の声かけに涙を流したり、「ありがとう」と、小川の手に触れたりすることがあった。複雑な家庭環境にある田中は退学することとなるが、小川がしたことの意味を考えたい。

2 [通信制] 理想の学校への歩み～通信制高校での実践 清田一弘、丸内敏也(熊本)

『通信制である』ことは悪い印象を受けるのではないかと思い、あまり話したくなかった。通信制高校は居心地の良い場所になってほしい。」7年前の卒業式、答辞を述べた卒業生からの思いを叶えるべく、理想の学校づくりに取り組んだ教師。「理想の学校」の環境をより広く波及させようと奔走してきた生徒。両者の実践を併せて報告する。

3 [生徒会] 生徒の意見表明で学校が変わる

山本和夫(青森)

生徒会として意見表明させることに取り組んでいる。それは、大きな行事の総括や生徒総会についての談話だけでなく、三者協議会での発言や、その議論を踏まえた校長に対する要望書、またそれに対する校長の回答への見解などさまざまな場面で行われている。時として学校側に対して批判的な内容になることもあるが、決して忤度しないよう役員を励ましている。その結果、学校がどのように変化したのか報告する。

4 [HR] 新しい景色が見えた文化祭

河上 馨(神奈川)

特別支援学校高等部での2年間の実践記録。行事縮小化の流れに伴い文化祭が「学習発表会」に変えられてしまう中で、それでも演劇に魅せられた筆者が、学年の教員集団に働きかけて学年演劇を作り上げていった実践。演劇を通して生徒や学年教員集団がどのように変わっていったのか。学校教育の中での、行事の意義について、改めて考えていきたい。

<一般分科会 8月10日(土) 13:30~17:00>

5 [HR] 見え方のちがいをこえて 授業改善要望書づくり

渡部翔子(埼玉)

夜間定時制高校の担任として、最終学年を迎えた渡部。進路決定を控えるなか、渡部は修学旅行の直前に起きたIとHのクラス内トラブルや、くすぶっていた数学の授業への不満が爆発した生徒たちに対し、自身が担当する国語表現の授業を通じて真正面から向き合っていく。渡部やクラスメイトとの関わりを経て、6人の生徒は4年間でどのように成長できたのか。最後の1年間の実践記録である。

6 [不登校] 「親の会」での親と教員の学び及び運営の在り方

「登校拒否・不登校に学ぶフレンズネットワークくまもと」
運営委員 石井嘉寿絵・事務局 山本哲男(熊本)

不登校である、ないに関わらず、全ての子どもを環境を良くしようと1997年に設立の熊本のボランティア団体での親の会(三百回超)からの学びや運営の在り方等について報告。①我が子が不登校になった経験を持つ母親が我が子の不登校や親の会での気づき、②定時制教員が教育の枠を越えた家庭への関わり実践等を、報告し参加者と率直に語り合い、教育と子育てと福祉の繋がり方を考えたい。

7 [HR] 1年間の担任を振り返って

一色直久(神奈川)

様々な課題や生活現実を抱えた生徒が集中したクラス。経験も力もないけれど、持ち合わせの思いと丁寧さで一つひとつ向き合っていた1年間の担任記録。実践を目の前の生徒との関わりから始め、見えてくるもの、心に感じたことを頼りに進み続けた。この1年間にどんな意味があったのか、より実践を深めるにはどうしたらいいのか。参加者の皆様と考えたい。

8 【授業】 「隣人」である東アジアとの関係を問い直す授業

池上聡一（鳥取）

「在日韓国・朝鮮人をはじめとする在留外国人へのヘイト」、「SNS などによる個人や集団への攻撃」が横行する現在、「隣人」である東アジアの人々や在留外国人に対する「思い込み」・「好ましくない関係」を問い直す授業はどのようにつくれるのか。いくつかの入り口から試みた実践を報告する。

<問題別分科会 8月11日（月）9：00～12：00>

1 声にならない声を聴く

NPO 法人トナリビト 山下祈恵（熊本）

虐待、ネグレクト、貧困…様々な事情から親を頼ることができない10代～20代の若者たちを支援するNPO 法人トナリビトでは、若者たちと関係性を築く中で、多くのことを若者たちに教えられ、葛藤を繰り返しながら若者たちの「声にならない声」を聴く実践を続けてきた。子ども・若者を取り巻く課題が複雑化する今、私たちは若者の「声」にどう向き合っていけばいいのか、ともに考えたい。

2 「いじめ・トラブル」を問い合うHR・授業

対話、ケアと「心の傷」をめぐる一渡部実践を元に

森 俊二・渡部翔子（埼玉）

渡部実践（一般分科会5、219号）は、授業の時間を使っているが、HRとして展開されている。一方「いじめ・トラブル」を授業として問い合う私の実践と読み比べ、渡部実践にある生活指導としての対話とケア、認知認識・関係性の変容とその深化を深めたい。そして、基調のSや渡部実践のHにみられるような生徒が抱える「心の傷」についても考えたい。

3 生徒たちが市民として参加する実践視角

小波津義嵩 佐藤岬平 望月一枝

生徒が「私たちのことを私たち抜きに決めないで」という要求を表出していく実践は、教師が片足を学校の内に、片足を外に置くことでつくられていく。教師が生徒と共に市民であろうとする際の実践視角について、その現代的特徴を捉えたい。また、学校で社会問題を学ぶことや「集団」そのものが持つ意味・意義を考えたい。

4 国語科若手教員が「請願」で声をあげてみたら

森長 明（大阪）

大阪の子どもを万博へ「無料招待」する事業に対し、声をあげた若手教員たち。「学校行事は、学校や現場の教員が決めたい」「学びや安全は保障されるのか?」。着目したのは、知る人ぞ知る「請願権」。職場での取材不許可や府議会全会派・議員との対話を経て、請願は全会一致で採択。なぜ彼らは声をあげ、その声は届いたのか。世代承継のヒント満載の報告をもとに、参加者と考察したい。

☆交流会 8月9日（土）18:00～19:00

○熊本私学教育支援事業団を訪問しセンター長と語る夕べ（熊本）

教師生活43年を通して、貧困の連鎖により様々な困難を抱えた子どもたちを見てきた仙波達也さん。自分の未来に夢を持ち、安心して学べる環境を実現するために、様々な事情で学校に通えていない子どもたちの支援や居場所づくりを行う学習支援センターを立ち上げた。現在、熊本県内に10教室を展開。小学校低学年から高校生まで、120名の子どもたちが通っている。また高校生の進路保障のために、通信制のサポート校も開設。レポート作成支援やセンタースタッフ（大学生）が様々な体験イベントを企画。子ども食堂も月2回開催し、センターは小中学生・高校生・大学生・教員及び市民の交流の場となっている。 <https://www.klsc.jp/jigyoudan>

<高生研大会会場周辺アクセス>

会場 熊本中央高校（全体会・一般・問題別分科会）

熊本市中心区内坪井町4-8

・・・市電：熊本城・市役所前から徒歩約800m

バス：熊本電鉄バスで壺井橋へ徒歩100m

くまもと県民交流館 パレア（総会、交流会）

熊本市中心区手取本町8-9・・・市電：水道町の目印



熊本市交通局



☆ 懇親会会場：

総会後の語らえる場として・・・

Sunny Blue（サニーブルー）

2日目：8月10日（日）20時～22時

熊本市中心区下通2丁目5-12

<パレアから650m 辛島町電停から400m>

テーブルチャージ料ワンドリンク付で
1000円。他、手作りカレーが500円など。

飲み物は各自追加でキャッシュ払い。

事前にフォームから申込をお願いします。

<保育> 希望される方は、フォーム（下記QRコードから申込）にご入力ください。

* 締め切り7月15日

<参加案内>

参加費 ・全日程（3日）参加 4,000円 ・2日参加 3,000円 ・1日参加 2,000円

・高生研会員（※1～3日参加一律）2,000円（新規入会者も対象）

・学生・保護者 1,000円（ただし大会実行委員として参加した場合は無料）

・オンライン参加※ 1,000円

※オンライン参加の場合、紀要はPDFファイルをダウンロードして参加していただきます。

<オンライン対応>での分科会はオンライン参加希望により決定します。（同時に3分科会まで）

参加希望は6月30日（月）までに入力願います。分科会のオンライン参加者が若干名の場合、他の分科会に移っていただくことがございます。ご了承ください。

申込み方法 「高生研全国大会2025熊本大会参加申込フォーム」から

お願いします。下記QRコードから簡単にアクセスできます。

フォーム申込み締切 オンライン参加申込、対面参加申込みとも 8月4日（月）

宿泊 各自でお取りください。

<大会に関する最新の情報・問い合わせ>

「高生研大会ブローガー18歳を市民に一」

<https://kouseiken.jp/Taikai/>

中西治（高生研大会グループチーフ）

e-mail: taikai-chief@kouseiken.jp

